

# センターだより

第59号

令和3年3月18日 発行

Aomori Prefectural School Education Center  
青森県総合学校教育センター  
〒030-0123 青森市大字大矢沢字野田80-2  
☎017-764-1997 FAX017-728-6351

## 課研究について（特別支援教育課）

特別支援教育課“課研究”

### 小・中学校における特別支援教育の充実に向けた実践的研究 (2年次)

## 本研究1年次の成果

- 昨年度は、青森県内小・中学校における特別支援学級、通級による指導に関する実態調査を行い、その結果を報告書にまとめ、当センターのホームページに掲載しました。  
[http://kenkyu.edu-c.pref.aomori.jp/index.php?key=muv66qx4-16#\\_16](http://kenkyu.edu-c.pref.aomori.jp/index.php?key=muv66qx4-16#_16)
- 特別支援学級・通級指導教室の担当教員は多様な困難を抱えていることが明らかになり、授業づくりをサポートする資料の必要性が示唆されました。



調査結果を踏まえて...

## 『特別支援学級・通級指導教室の授業づくりに役立つQ&A』を作成しています!



- コンセプトは「**時々サクッと読み返したくなる!**」です。
- 主な特徴
  - ✓ 特別支援学級・通級指導教室の担当教員が様々な困難を感じている各教科や自立活動の授業づくりに役立つ内容で構成しています。
  - ✓ 特別支援学級や通級指導教室の子供たちの実態は多様であるため、実践事例ではなく、何度も繰り返し確認する必要がある「基本的な考え方」を示しています。
  - ✓ 多忙な学校現場において短時間で読めるよう、情報量を精選しています(4コマ漫画を取り入れました)。
- 本Q&A集は、現在、試行版が完成したところです。令和3年度の研修講座等で資料として活用し、受講者の先生方からの評価を踏まえた修正作業を行い、令和4年3月に公開予定です。

## 掲載予定の Q (抜粋)

- ・教科の授業で、複数の学年の子供に対応するためにはどうしたらよいですか?
- ・特別支援学級における教科の授業は、教科書を使わずにプリント学習でよいのですか?
- ・生活単元学習では、学習活動がマンネリ化しがちです…。
- ・生活単元学習で行事単元を計画しているのですが、どのような学習活動がよいのか分かりません。
- ・学級の子供が初めて協力学級で学習することになりました。どんなことに気を付ければよいのですか?
- ・協力学級の担任とは、どのように情報共有や連携をしていけばよいのですか?
- ・自立活動の指導目標は、どうやって決めればよいのですか?
- ・自立活動の時間は、学級の子供全員に同じ活動内容で集団指導してもよいのでしょうか?
- ・子供の苦手な活動に取り組むとき、参加意欲を高めるためにはどのような工夫をすればよいのでしょうか?
- ・教室の整理、机の配置、机上の整理等、子供が集中しやすい環境の作り方が分かりません。
- ・各授業で、1時間の具体的なねらいや課題の難易度をうまく設定できません。
- ・子供の実態に応じた教材・教具になっているか自信がありません。
- ・子供になかなか指示がとおりにません。コツはありますか?
- ・どうしても子供に援助し過ぎてしまいます…。
- ・個別の指導計画は、複数の教員で作成した方がよいと思いますが、なかなか時間の確保が難しいです…。
- ・発達検査や心理検査を実施した経験はありませんが、実態把握はできるのでしょうか?
- ・個別の指導計画の長期目標と短期目標を立てましたが、これでよいのか不安です…。
- ・どのような指導・支援が効果的なのか判断できません。個別の指導計画にどのように書いたらよいのでしょうか?
- ・通級指導教室ってどんなところですか?
- ・通級指導教室のこと、周りの子供達にどうやって説明すればよいのですか?
- ・通級指導教室での指導を在籍学級でどう生かせばよいのでしょうか?

# 令和3年度予定されている新規講座の紹介

## C41 体育授業ICT 利活用研修講座

8月17日(火)

超情報化社会が進展する中、ICT機器を体育の授業実践でも適切に活用することで「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す取組が期待されています。本講座では、ICT機器及等の利活用の仕方を学び、ICTに慣れるとともに、実技を通して利活用の仕方を模索します。皆さんでICT利活用力の向上を図る機会としてみませんか。

<講師>

東京学芸大学准教授 鈴木 直樹 氏



## D05 高等学校に おける道徳教育講座

6月14日(月)

高校の道徳ってどうすればいいの？中学校までの道徳と何が違うの？そんな疑問ありませんか。本講座は、高等学校における道徳教育の在り方について学ぶとともに、具体的な取組について考えます。午前は文部科学省教科調査官飯塚秀彦氏による講義、午後は自校の道徳教育重点目標を意識した具体的な取組について考える等の協議・演習を行うことで、学校の教育活動全体を通じた道徳教育の推進について理解を深めます。

<講師>

文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官  
飯塚 秀彦 氏



## D17 特別支援学級 授業づくり研修講座 (前期)(後期)

前期 7月28日(水)

後期 9~12月の1日

特別支援学級2~6年目担当教員を対象に、特別支援学級における授業づくり(障害理解や特性に応じた指導法等)について研修します。

1日目(前期)は講義・協議、2日目(後期)は指導主事が学校を訪問し、障害特性に応じた授業づくりについて協議します。



## D23 子供たちの学び を止めない！オンライン 授業実践講座

5月26日(水)

新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言以降、子供たちの健やかな学びの保障が強く求められるようになりました。コロナウイルスだけでなく、気象警報発令による臨時休校や登校が困難な子供たちへの対応は今後も継続していかなければなりません。このような課題は、ICTを最大限活用することが極めて効果的です。

本講座では、GIGAスクール構想の実現を踏まえつつ、先生方の負担をより軽減しながら公正に個別最適化された学びの実現を目指します。



## D28 ゼロから学ぶ！ Chromebook初心者 講座

6月2日(水)

本講座では初めてChromebookに触れる方のために、キーボードやタッチパッドの機能、アプリの基本操作について演習します。また、電子黒板との接続、G Suite for Educationアプリについて基本的な知識と実践的な技術の習得を目指します。



掲載された新規講座以外の研修講座については、3月18日付けで、各学校へ配付しました『令和3年度研修講座案内』にて紹介していますので、そちらもご覧ください。



青森県総合学校教育センター  
イメージキャラクター

アプセくん

## 研修講座の実績

### ●研修区分別修了者数

#### 【基本研修】

・初任者研修(小、中、高、特) 計 1,298名

・新規採用教員研修  
(幼稚園等教員、事務職員、実習講師) 計 18名

・経験者研修(フォローアップ研修、中堅前期研修、  
中堅前期・後期研修、中堅後期研修) 計 799名

#### 【職務研修】

・職務研修Ⅰ(校長研修、教頭研修、他) 計 374名

・職務研修Ⅱ(進路指導担当者研修、他) 計 314名

#### 【専門研修】

・教科研修 計 677名

・教科外研修 計 801名

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった講座等を除く、162講座を開催しました。これらの講座に対するアンケート集計の結果、「内容は分かりやすかったか」や「実践の参考になったか」について、5段階評価の最高評価「5」と回答した受講者は約8割おり、受講者にとって学びの多い研修講座を提供できたと考えております。

次年度は、GIGAスクール構想により、ICTを活用した教育が本格化することを踏まえ、「タブレット端末を活用した」講義・演習等がある研修講座を多数準備しております。皆様の受講をお待ちしております。

## 校内研修等講師派遣の実績

派遣数: 126件(のべ受講者数3,043名)

### ・申込機関別内訳

小学校	43件	中学校	37件
高等学校	22件	特別支援学校	10件
教育機関	6件	研究会・協議会	8件

### ・テーマ別内訳(主なもの)

授業力向上と授業改善	39件
授業におけるICT活用	23件
特別な配慮を必要とする 児童生徒の支援	14件
授業のユニバーサルデザイン化	9件

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、申込数が減少した上に、申込後、休校措置の対応によるキャンセルが多く発生したため、全体の派遣数が減少しました。

申込内容は、授業改善やICT活用、プログラミング学習といった新学習指導要領への対応に関するものや、障害のある児童生徒への対応などの特別な配慮を必要とする児童生徒への支援に関するものが多くありました。



## 広報委員長から

生活様式が一変して1年が経とうとしている今、新型コロナウイルス感染症に対応したワクチン接種がようやく始まり、以前の日常生活に戻る可能性も出てきました。

この1年間を振り返ると、当センターで実施される研修講座は開催方法が一変しました。緊急事態宣言を受け、4月・5月の研修は紙上開催、6月からは集合開催になったものの、オンラインでの講義、三密を避けるため、受講者同士の協議の縮小等、考えられる対応をできるだけしてきました。そのような中、初任者研修や中堅教諭等資質向上研修等を無事終えることができたことをご報告いたします。また、受講者の皆さんにも多大なご協力をいただいたことに感謝いたします。

### 1 次年度の研修講座について

GIGAスクール構想を受けて、ICT機器の活用を推進するために、令和3年度の研修講座ではICT機器を用いた講座を数多く開設することとしました。子供たちにタブレット端末が配布されることを鑑みると、教員の必要なスキルとして身に付けなければならないものとなります。この機会に積極的に講座を受講し、授業に活用していただきたいと考えております。なお、3月に各学校等に配布する研修講座案内の冊子に掲載されますのでご確認の上、申込みください。

### 2 次年度の発行回数について

当センターから発行される広報誌には、当センターの活動内容を広くお知らせするセンター広報誌「センターだより」と、研究員研究やプロジェクト研究の内容紹介やおももり教育研究発表会における展示や配布物についての情報を掲載した研究委員会だより「KONKEN」があります。次年度からは一つにまとめ、新たにICT機器の活用事例を連載し、「センターだより」として年6回発行することとなりました。

結びに、県総合学校教育センターでは、教員のキャリアステージや職務に応じた研修講座の充実とともに、各学校における教育課題の解決に向けて、学校や先生方をサポートする取組を進めて参ります。今後とも、当センターを積極的にご活用くださるようお願い申し上げます。

(県総合学校教育センター 特別支援教育課長兼広報委員長 矢野 久光)